

重 要 記 録

1 第2次米子市総合計画（米子いきいきプラン2011）の策定

市の将来像「生活充実都市・米子」のさらなる発展と、少子高齢化や人口減少の加速、地方財政の縮小、地域経済の長期低迷、国政の変革など大きく変動する社会経済情勢の中で、多様化する市民ニーズや新たな行政課題に的確に対応するため、平成32年までの基本構想と平成27年までの基本計画を定めた「第2次米子市総合計画（米子いきいきプラン2011）」を策定した。

2 市政懇談会「市長と語ろう、いきいき米子のまちづくり」開催

9月から2月にかけて、市政懇談会「市長と語ろう、いきいき米子のまちづくり」を開催し、新たに策定した「第2次米子市総合計画（米子いきいきプラン2011）」の概要について、市長が29地区の公民館等に出向いて説明するとともに、様々な課題について意見交換を行った。

3 台風12号で避難指示

台風12号が、9月3日未明から4日未明にかけて米子市内各所に被害をもたらした。佐陀川が決壊する恐れが生じたため、佐陀川と野本川との合流する地域の464世帯、約1,300人に対し、米子市として初となる避難指示を出した。その他、床上・床下浸水、道路や田畑の冠水、法面や護岸の崩落、ため池の決壊などが相次ぎ、市内各所の道路が通行止めになるなどの被害が出た。

4 中海市長会で公用電気自動車（EV）導入

中海市長会の環境保全に関する共同事業として、電気自動車を3台導入した。また、あわせて米子市観光センターに電気自動車用の急速充電器を設置した。電気自動車のうち2台は、平日は公用車として利用し、土日祝日は、観光客にレンタカーとして貸し出し、二酸化炭素を排出しない環境にやさしい自動車として普及啓発に努めた。

5 ヨネギーズに子ども「ネギポ」誕生

米子市のイメージキャラクター「ヨネギーズ」のネギ太とネギ子に、子ども「ネギポ」が誕生し、10月にお披露目した。ゆるキャラに子どもが生まれるのは全国初として話題となった。

6 図書館・美術館基本設計完成

「伯耆の国よなご文化創造計画」の主要施策である図書館・美術館整備事業について、市民、利用者及び関係団体の意見、要望を聞き、さらにはパブリックコメント、タウンミーティングを行って、11月に基本設計が完成した。

7 米子市・保定市友好都市締結20周年記念事業の実施

米子市・保定市友好都市締結20周年を記念して、11月13日から16日まで、崔啓慧（サイ・ケイ・ケイ）中国人民政治協商会議保定市委員会主席を団長とする保定市代表訪日団（5人）を迎えて、記念式典及び友好交流の写真展を開催し、今後の交流について協議を行うなど、日中国際交流のより一層の発展を果たした。

8 島根原子力発電所に係る鳥取県民の安全確保等に関する協定の締結

12月25日、島根原子力発電所に係る鳥取県民の安全確保及び環境の保全を図ることを目的として、鳥取県、米子市、境港市及び中国電力（株）の4者間で、安全協定を締結した。

この協定締結は「防災対策を重点的に充実すべき範囲（EPZ：原子力発電所から半径8km～10km）」を超えた地域における全国初の締結となった。

9 米子市暴力団排除条例の制定

12月26日、暴力団の排除を推進し、安全で平穏な市民生活の確保と社会経済活動の健全な発展に寄与することを目的として、「米子市暴力団排除条例」を制定した。平成24年4月1日の施行にあわせ、米子警察署との協力体制を整える必要があることから、2月24日、米子市と米子警察署との間で、「米子市の行政事務からの暴力団等の排除に関する合意書」を締結した。

10 米子市民自治基本条例の制定

まちづくりの主体である市民が、市民同士、また行政や議会とともに役割と責任を分担し、手を携えてより良いまちづくりを進めるための基本的な考え方を定めた「米子市民自治基本条例」が3月議会で可決・成立した。

11 東日本大震災復興支援

東日本大震災の復興支援として、避難所支援、保健指導のほか、仮設住宅の受付や災害廃棄物関係の受付業務等の行政支援等を行うとともに、市民からの義援金の受付窓口を開設した。また、被災地から米子市に避難された方に対し市税減免等の生活支援を行った。

- ・被災地への職員派遣：延べ111名（平成23年3月26日～平成23年11月3日）
- ・被災地からの避難者の受入：延べ27世帯、62人（平成24年3月31日現在）